

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-030162

(43)Date of publication of application : 04.02.1994

(51)Int.Cl.

H04N 1/00

(21)Application number : 04-107480

(71)Applicant : MURATA MACH LTD

(22)Date of filing : 27.04.1992

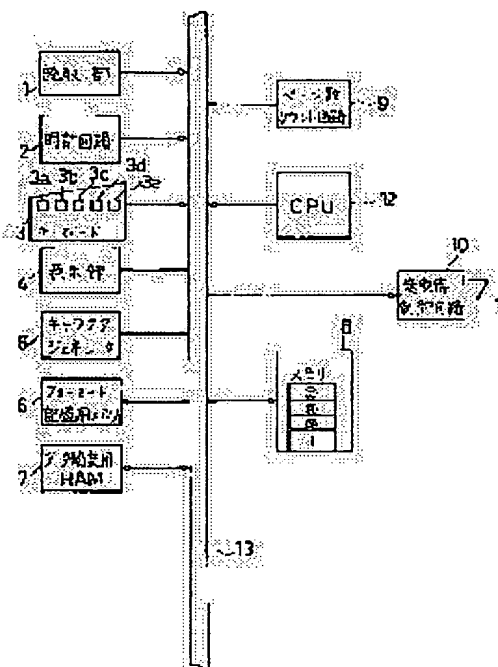
(72)Inventor : YAMAMOTO MAKOTO

(54) FACSIMILE EQUIPMENT WITH TRANSMISSION GUIDANCE MESSAGE GENERATING FUNCTION

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve the convenience of use and the economy by sending picture data of a transmission guidance text based on data relating to a format of the transmission guidance text to be stored and on characters inputted and inserted in the format.

CONSTITUTION: Columns of a transmission destination name C1, a sender name C2, a sender side facsimile number C3, transmission messages C4, C5, a year, month day and the time C6 and a number of transmission sheets C7 are left blank in a format stored in a format storage memory 6. When a transmission guidance text key board 3 is depressed, the format are read on a data editing use RAM 7, and numerals, messages and characters required for space of the columns C1-C7 are filled in by the operation of a ten-key or the like. Furthermore, when a CPU 12 reads all pages of transmission originals, the generated transmission guidance text is stored in the RAM 7, the transmission guidance text stored in the RAM 7 is converted into an image and it is sent sequentially to the opposite party together with the transmission original read before.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 20.05.1993

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 03.02.1998

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-30162

(43)公開日 平成6年(1994)2月4日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 4 N 1/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 7046-5C

審査請求 有 請求項の数1(全7頁)

(21)出願番号 特願平4-107480

(22)出願日 平成4年(1992)4月27日

(71)出願人 000006297

村田機械株式会社

京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

(72)発明者 山本 真

京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機

械株式会社本社工場内

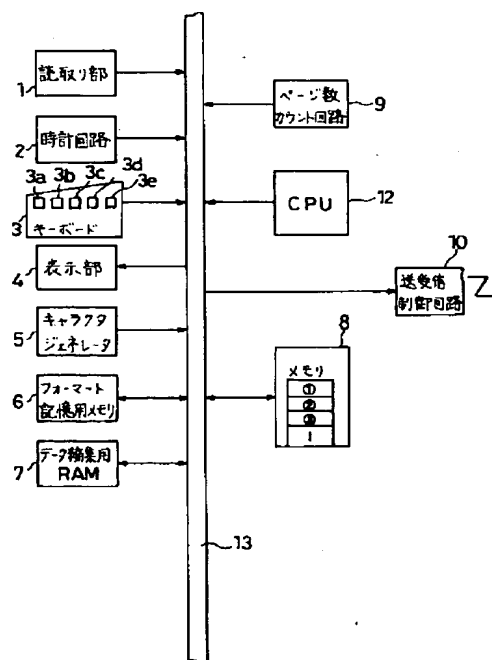
(74)代理人 弁理士 中島 司朗

(54)【発明の名称】 送信案内文作成機能付ファクシミリ装置

(57)【要約】

【目的】 送信案内文作成機能を有するファクシミリ装置の提供を目的としている。

【構成】 ファクシミリ装置が、文字を入力するキー入力手段と、送信案内文のフォーマットを保持する記憶手段と、前記フォーマット内の所定箇所に文字を入力して送信案内文を作成する作成手段と、作成した送信案内文を送信する送信手段とを備えたことを特徴としている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 文字を入力するキー入力手段と、送信案内文のフォーマットを保持する記憶手段と、前記フォーマット内の所定箇所に文字を入力して送信案内文を作成する作成手段と、作成した送信案内文を送信する送信手段、とを備えたことを特徴とする送信案内文作成機能付ファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、送信案内文作成機能を備えたファクシミリ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】この種のファクシミリ装置の従来例としてはたとえば、

①読取り部にまず相手先の宛名、送信メッセージ（例えば「貴社益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、早速ですが、ご依頼の件につきまして以下の通りご連絡申し上げます。」など）、送信日時、等の送信案内文（カバーレター）を読み取らせ、しかる後にこれらを結合して相手先に順次送信を行う構成をとるものがある。

②また、最近では、頻繁に使用する相手先名や汎用性の高い一般的、定形的なメッセージを幾つか予めメモリに登録しておき、送信に際しこれらをメモリより読みだして適宜選択し送信案内文を合成して送信する方法が考えられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述の従来例①による場合は、例えば、相手先毎に異なる送信案内文を手書きにて作成する必要がある、ファクシミリ装置の使い勝手の向上をはかる上で限界があった。また従来例②による場合は、メモリに登録できる量に制限があるために、作成できる内容に限界があり、登録されていない相手先や非定形的なメッセージを送信しようとする場合には結局手書きにて作成しなければならないという煩雑さがあった。一方、作成できる内容の幅を広げようとすると、数多くの相手先名や文章を登録しておく必要がある、ファクシミリ装置の記憶資源の浪費になるという問題があった。

【0004】本発明は、かかる点に鑑みてなされたものであり、ファクシミリ装置の記憶資源の浪費の防止と送信案内文の作成労力の軽減という相反する要請の調和を図りつつ、送信案内文の内容に多様性を付与するため、使用頻度の少ない相手先名や特定の内容を伝達するための非定形的メッセージ（任意メッセージ）については、操作者が全く手書きすることなく文字入力できるようにした送信案内文作成機能付ファクシミリ装置の提供を目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するた

2

め、本発明は、文字を入力するキー入力手段と、送信案内文のフォーマットを保持する記憶手段と、前記フォーマット内の所定箇所に文字を入力して送信案内文を作成する作成手段と、作成した送信案内文を送信する送信手段とを備えたことを特徴としている。

【0006】

【作用】上記の構成により、該キー入力手段が操作者による自由な文字入力を可能にする。該記憶手段が、宛先名称、発信元名称等の書込み欄（フォーマット）や「よろしく申し上げます。」「敬具」などの定形的な文章を送信案内文の書式に関するデータとして予めメモリに記憶する。また、該入力手段が操作者による前記書式の空白部分に文字入力することを可能とする。更に、該送信手段が、前記記憶手段により記憶された送信案内文の書式に関するデータと前記入力され、フォーマットにはめ込まれた文字に基づいて送信案内文の画データを送信することを可能にする。

【0007】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面に従って具体的に説明する。図1は本発明を適用したファクシミリ装置を示すブロック図である。本ファクシミリ装置は、読取り部1、時計回路2、キーボード3、メッセージ表示部4、キャラクタージェネレータ5、フォーマット記憶用メモリ6、データ編集用RAM7、メモリ8、ページ数カウント回路9、送受信制御回路10、CPU12及びこれらを接続するデータバス13を含む。

【0008】前記読取り部1、時計回路2、表示部4、キャラクタージェネレータ5、ページ数カウント回路9、送受信制御回路10はファクシミリ装置において公知の回路、構成なので、詳細な説明は省略する。キーボード3は、送信キー、テンキー、ワンタッチダイヤルキー等の一般のファクシミリ装置が備えるキーの他に、送信案内文作成モードキー3a及び任意メッセージ入力モードキー3b、表示欄シフトキー3c、選択完了キー3d、メッセージ終了キー3eを備える。この入力モードキー3bを押した場合には、テンキーが文字入力キーの機能を果たす。この場合において、入力された文字は表示部4で表示される。

【0009】フォーマット記憶用メモリ6は、図2

(a)に示す送信案内文のフォーマットを格納している。このフォーマットには送信先名C1、発信者名C2、発信側ファクシミリ番号C3、送信メッセージC4、C5並びに年月日時刻C6、送信枚数C7の欄が空白で残されている。キーボード3上の送信案内文作成モードキー3aが押されると、このフォーマットがデータ編集用RAM7上に読み出され、テンキーの操作等により前記C1～C7の空白に必要な数字、メッセージ、文字を書き込まれる。

【0010】メモリ8は図3(a)(b)(c)に示す内容（送信案内文の書式に関するデータ）を格納してい

3

る。図3(a)は短縮ダイヤルキーに対応した送信先名、図3(b)は発信人の氏名及びFAX番号、図3(c)は定形メッセージである。各図の左端の数字はメッセージ又はFAX No.を読み出すためのキー入力番号である。

【0011】CPU12はファクシミリ装置の送受信動作を制御するもので、その制御内容のうち、送信動作を図4、5に示す。まず、操作者がキーボード3上の図示しない送信入力モードキーをオンすると、ファクシミリ装置は送信モードに切り換わり、表示部4に「相手先の番号」の表示がなされる。そこで、操作者がメモリ8に
10 予め登録されている相手先の番号をキーボード上のテンキー操作により入力する(S1)。相手先番号が予め登録されていないときは、キーボード3のテンキーを操作し相手先名及び相手先電話番号を入力する。これにより、ステップS2に進み、案内文作成モードが選択されているか否かを判断し(S2)、操作者により送信案内文作成モードキーがONされていない場合は通常
の送信動作を行う(S3)。一方、ONされている場合はステップS4に進み、読取り部1による原稿画像の読み取った画データは、図示しないメモリに一旦格納される。この動作は、送信原稿の全ページの読み取りが終了するまで繰り返される(S5)。尚、全ページの読み取りによってページ数カウント回路9は送信原稿の全枚数をカウ
ントする。

【0012】CPU12が送信原稿の全ページの読み取りが完了したことを確認するとステップS6に示すサブルーチンを実行し、操作者の操作によって作成された送信案内文をRAM7に一旦格納する。次いで、CPU12の指令に基づき、RAM7に格納されている送信案内文がイメージ変換され(S7)、前記で読み取った送信原稿とともに順次相手先に送信される。

【0013】次に図5に従い、送信案内文の作成手順について説明する。CPU12は、フォーマット記憶用メモリ6のアドレス情報を読み出し表示部4に表示させる(S11)。このフォーマットのアドレス情報はフォーマット記憶用メモリの所定の部位にC1からC5に分割されて格納してある。操作者がキーボード上のキー操作を行うと、順次C(カウンターナンバー)に対応するアドレス欄が表示部4に表示されることになる(S1
3)。

【0014】操作の初期においてはC=1なので、表示部4には送信先表示欄C1が表示される。このとき操作者が短縮ダイヤルキーを操作すると、処理はS14→S15と進んで、短縮ダイヤルキーの番号に対応する送信先名(例えば短縮ダイヤルが“01”であると図3(a)から〇〇〇株式会社)が前記表示欄C1に表示される。表示に間違いがなければ選択完了指示キーが操作され、次にカウンターナンバーが1アップする(S18)。C=2においては表示部4に発信人欄C2が表示
50

4

される。このときも操作者が2桁のダイヤルキーを操作すると図3(b)の発信人名が読み出されて、前記表示欄に表示される。以上の操作によって、次々と新たな表示欄に必要なメッセージを書き込むことができる。一方、例えばカウンターナンバーが5で、送信案内の主要なメッセージを表示する欄C5に関して、定形メッセージでなく、新たなメッセージを作成しようとする場合には、操作者が任意メッセージ入力モードキー3bを押すと、処理がS19→S20へと進む。任意メッセージ入力モードキー3bの操作によって、テンキーが文字入力キーとして機能するので、操作者はテンキーを操作して必要なメッセージを入力する。そして、メッセージ入力を終えると、メッセージ終了キーを押せば(S21)、処理はS17へと進む。なお、表示部4にC5の表示欄が表示されている状態において、操作者がメッセージを記入する必要なしと判断すると、表示欄シフトキー3bを押せば(S22)、その表示欄に何も記入することなく処理が次のステップに進む。

【0015】また、ステップS17において、C=5と判断されると、処理はS23へと進む、表示欄C6に日付け時刻を記入し、C7に送信枚数を記入する。ここで、日付け等は時計回路から読出す時刻情報から得られるし、枚数はカウント回路から得られる。図2(b)は以上のようにして作成された送信文の例を示している。尚、上記では、各カウンターナンバーに対応して登録されている定形メッセージの全てを表示部11に表示させるようにしてあるが、定形メッセージを1ずつ順次表示させて、選択の有無を判断する構成としてもよい。

【0016】以上、上記サブルーチンで示される個別情報の書き込み処理が完了すると、手続はメインフロー(図4)にリターンし、データ編集用RAM内に格納されている送信案内文をキャラクタージェネレータ5を使ってビットデータに展開した後(S7)、送信原稿と共に送信する(S8)。

【0017】

【発明の効果】本発明によれば、原稿画像に先立って送信される送信案内文の作成を、簡単なキー操作で行うことができると共に使用頻度の少ない相手先名や特定の内容を伝達するための非定形的メッセージ(任意メッセージ)は、操作者が全く手書きすることなく文字入力できる。また、これによりファクシミリ装置の記憶資源の浪費を抑制しつつ送信案内文の内容に多様性を付与できる。従って、本発明によれば、使い勝手が良くかつ経済性にも優れた送信案内文作成機能付きファクシミリ装置が提供できることになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るファクシミリ装置の概略構成を示すブロック図である。

【図2】(a)は、フォーマット記憶用メモリ内の送信案内文のフォーマットを示す図面である。(b)は、フ

5

フォーマットに諸データを書き込んだ後の送信案内文の一例を示した図面である。

【図3】送信案内文の書式に関するデータの内容を示す図面である。

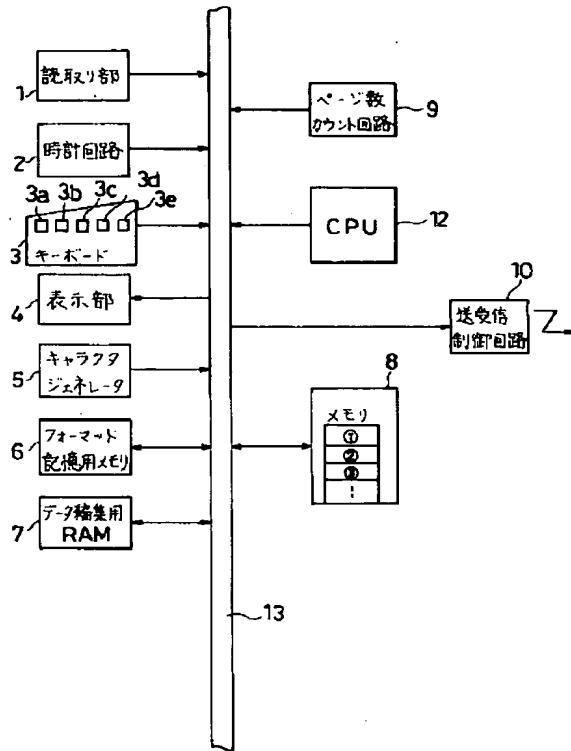
【図4】送信案内文を登録するための手順を示すメインフローチャートである。

【図5】送信案内文を作成するための操作の詳細を示すサブルーチンのフローチャートである。

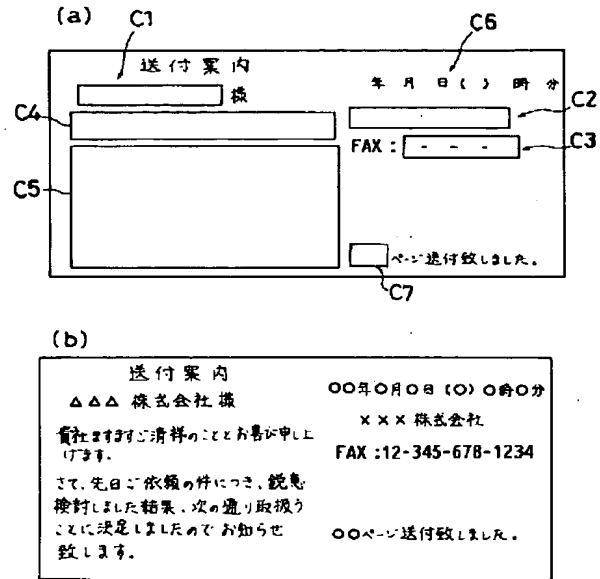
*【符号の説明】

- 1 読取り部
- 3 キーボード
- 4 表示部
- 6 フォーマット記憶用メモリ
- 7 データ編集用RAM
- 8 メモリ
- 12 CPU

【図1】



【図2】



【図3】

(a)

登録番号	FAX.NO.	送信先名
01	06・xxxx・oooo	ooo 株式会社
02	075・xxx・oxox	△△△ 株式会社
⋮	⋮	⋮
10	03・ooo・xxxx	xxx 株式会社
⋮	⋮	⋮

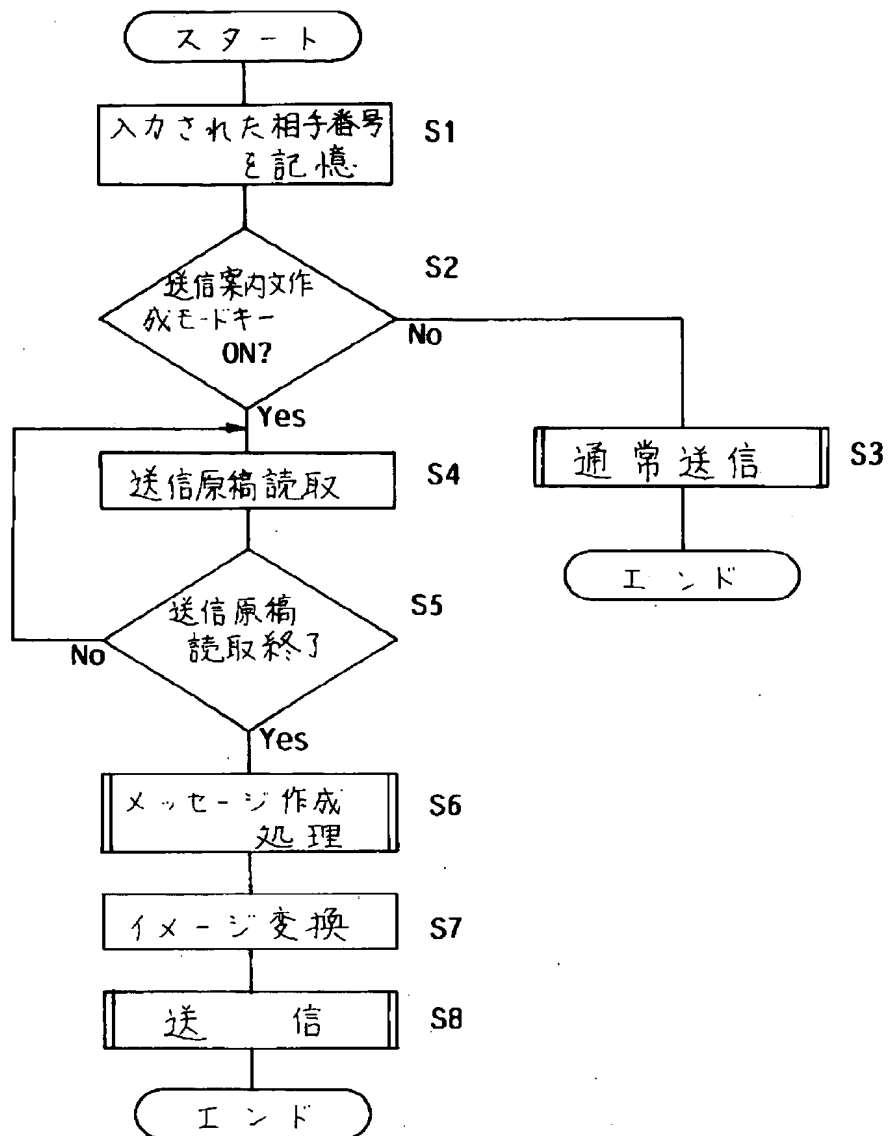
(b)

発信人番号	FAX.NO.	発信人名
20	06・oxo・xxoo	ABC 株式会社

(c)

メッセージ 呼出番号	足形メッセージ
30	貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
31	新緑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
32	日ごと格別のお引度にあすかりありがとうございます。
33	ご依頼の件につき、以下の通りに連絡申し上げます。
⋮	⋮

【図4】



【図5】

